

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 商業販売統計(2010年7月)
～猛暑とエコカーが押上げ～

発表日2010年8月31日(火)

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 岩田 陽之助
TEL : 03-5221-4525

(単位: %)

		商業販売額										コンビニ販売額	
		卸売業		小売業		大型小売店		百貨店	スーパー	前年比	既存店 前年比		
		前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	既存店 前年比			既存店 前年比	
09	1-3月期	▲20.6	▲12.1	▲25.2	▲15.4	▲3.9	▲1.6	▲5.6	▲7.2	▲11.1	▲4.6	6.3	4.2
	4-6月期	▲23.4	▲3.5	▲28.9	▲4.5	▲2.8	▲0.1	▲4.9	▲6.6	▲10.8	▲4.1	3.4	5.2
	7-9月期	▲22.8	▲0.6	▲28.3	▲1.0	▲1.9	0.9	▲5.5	▲7.0	▲9.8	▲5.4	▲3.5	6.2
	10-12月期	▲14.9	▲0.2	▲19.3	▲0.4	▲0.7	▲0.1	▲6.4	▲7.0	▲8.8	▲5.8	▲3.1	7.2
10	1-3月期	▲0.7	3.1	▲2.2	3.0	3.8	2.7	▲4.2	▲4.9	▲4.9	▲4.9	▲2.3	8.2
	4-6月期	2.1	▲0.2	1.5	▲0.2	3.7	0.1	▲2.9	▲3.5	▲3.8	▲3.4	▲0.3	9.2
09	1月	▲15.5	▲1.5	▲19.5	▲2.1	▲2.4	0.1	▲3.8	▲5.5	▲9.2	▲3.1	8.8	6.8
	2月	▲21.5	▲3.9	▲25.7	▲4.7	▲5.7	▲0.3	▲6.6	▲8.1	▲11.4	▲6.1	4.0	2.0
	3月	▲24.0	▲7.4	▲29.2	▲9.5	▲3.8	▲0.8	▲6.7	▲8.2	▲12.9	▲4.9	6.1	3.9
	4月	▲22.4	4.0	▲27.8	5.4	▲2.8	0.5	▲5.0	▲6.7	▲11.3	▲3.9	6.5	4.0
	5月	▲24.3	▲0.7	▲30.4	▲1.3	▲2.7	0.1	▲4.5	▲6.4	▲12.1	▲3.0	3.1	0.8
	6月	▲23.3	▲1.3	▲28.7	▲1.3	▲2.9	▲0.1	▲5.2	▲6.8	▲9.1	▲5.4	0.9	▲1.7
	7月	▲24.0	1.6	▲29.8	1.9	▲2.4	0.4	▲7.0	▲8.4	▲11.8	▲6.0	▲5.1	▲7.5
	8月	▲22.4	▲1.5	▲28.0	▲2.2	▲1.8	0.5	▲5.0	▲6.8	▲8.9	▲5.7	▲3.0	▲5.6
	9月	▲22.0	▲0.5	▲27.1	▲0.2	▲1.3	0.6	▲4.2	▲5.6	▲7.8	▲4.3	▲2.4	▲5.7
	10月	▲19.2	0.6	▲24.2	0.6	▲1.0	▲0.6	▲6.4	▲7.2	▲10.6	▲5.2	▲2.9	▲5.6
	11月	▲14.6	0.1	▲18.7	0.0	▲1.1	0.0	▲9.0	▲9.7	▲11.8	▲8.3	▲3.6	▲6.4
	12月	▲10.9	▲0.1	▲14.6	▲0.5	▲0.2	▲0.3	▲4.2	▲4.6	▲5.1	▲4.3	▲2.8	▲5.7
10	1月	▲3.8	6.4	▲6.1	7.7	2.3	2.0	▲5.1	▲5.7	▲5.7	▲5.7	▲2.5	▲5.5
	2月	▲0.9	▲2.6	▲2.7	▲3.2	4.2	0.9	▲3.4	▲4.0	▲5.3	▲3.3	▲1.8	▲4.9
	3月	2.4	▲4.0	1.5	▲5.9	4.7	0.8	▲4.1	▲4.9	▲3.6	▲5.6	▲2.4	▲5.1
	4月	3.6	6.1	3.1	8.1	4.9	0.5	▲3.1	▲3.7	▲3.7	▲3.7	▲1.2	▲3.9
	5月	1.3	▲3.0	0.7	▲3.6	2.9	▲2.0	▲3.2	▲3.9	▲2.1	▲4.8	▲0.8	▲3.7
	6月	1.3	▲1.3	0.6	▲1.3	3.3	0.4	▲2.4	▲3.1	▲5.7	▲1.6	1.2	▲1.4
	7月	1.0	2.2	▲0.1	2.4	3.9	0.7	▲0.9	▲1.2	▲1.3	▲1.2	2.9	0.3

(出所) 経済産業省「商業販売統計」

○7月小売業販売額：前月比+0.7%

経済産業省から本日公表された10年7月の小売業販売額は前年比+3.9%となり、事前の市場予想(前年比+3.5%、レンジ同+2.3%~同+3.9%)を小幅上回る結果となった。季節調整値は、前月比+0.7%と増加し、4-6月平均対比で見ても+0.3%と増加した。本日発表された消費財出荷のほか家計調査など他の個人消費関連統計も改善しており、7月の消費は比較的良好な結果であったと判断されよう。

子ども手当の支給開始やボーナスの増加など家計所得の持ち直しも一定程度下支えとなっていると考えられるが、今月の個人消費を押し上げたのはやはり猛暑関連商品の販売増加のようだ。月中旬以降の気温上昇により、夏物商品の販売が好調であったと考えられる。業種別に見ても、織物・衣服・身の回り品小売業(前月比+2.9%、寄与度+0.2%pt)、飲食料品小売業(同+1.1%、寄与度+0.3%pt)などの増加が目立つ。

また、従前予想されていた通りエコカーの駆け込み需要も徐々に始まっている可能性がある。自動車小売業は大きく増加(前月比+3.2%、寄与度+0.4%pt)した。

以上の通り、7月の個人消費を押し上げた要因としては主に①猛暑、②エコカーの駆け込みが挙げられるが、これらの要因は7-9月期を通して個人消費を押し上げそうだ。猛暑は8月中も続いているほか、足元

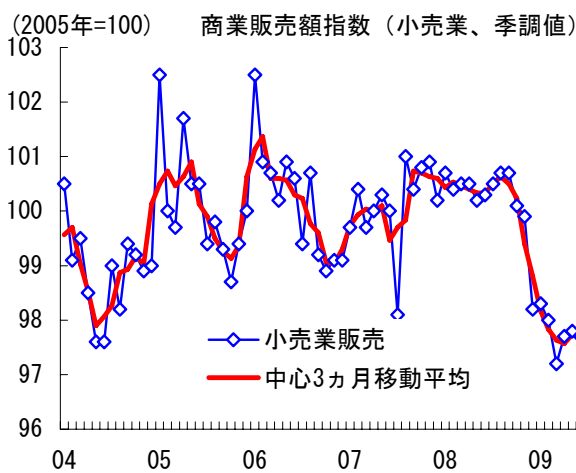
でエコカー補助金の申請が加速している。また、これらの要因に加え、10月からはたばこが値上がりするため同品目でも9月頃に駆け込み需要が発生する公算が大きい。こうした諸要因を勘案すると、7-9月期の個人消費は4-6月期に比して高い伸びを示す可能性がある。

○エコポイントの延長が決定

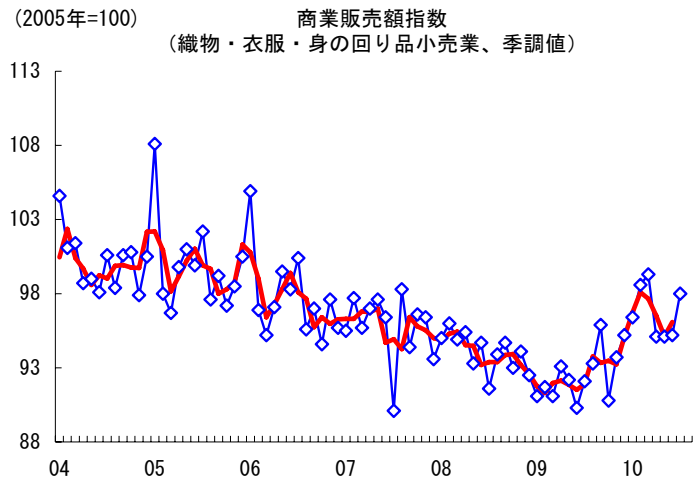
政府は12月末に終了が予定されていたエコポイント制度の延長を決定した。このため、今後の個人消費の動向を予想していく上でもこうした変化を考慮する必要がある。

従来は、10-12月期について、7-9月期の押上げ要因が剥落する反面、エコポイント制度終了に伴う家電の駆け込み需要が下支えすることで全体としては横這い圏に止まり、1-3月期について、経済対策の下支えが無くなることで大きな減速を予想していた。もっとも、今回エコポイント制度の延長が決定されたことで、上記の予想よりも10-12月期の個人消費は減速し、1-3月期は逆に落ち込み幅が小さくなると考えられる。

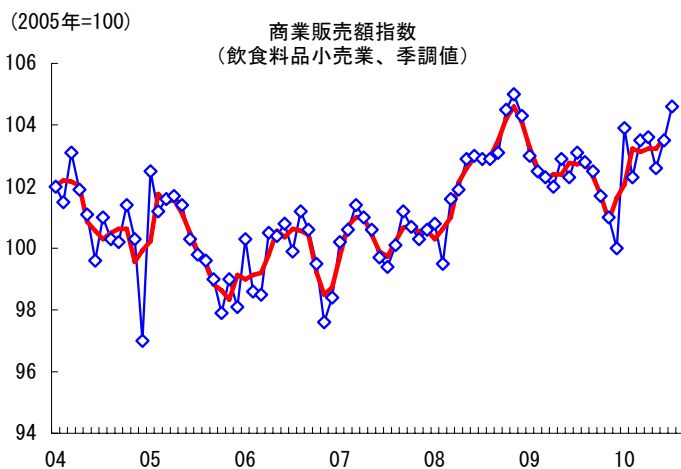
このように、当面は経済対策終了などの特殊要因に振り回され、個人消費の基調が掴みづらい状況が続くと考えられるが、こうした混乱が沈静化して以降は、個人消費は再び緩やかな回復傾向を辿ると考えられる。雇用・所得環境が緩やかながら持ち直しが続くことが、個人消費の下支えとなると予想される。



(出所) 経済産業省「商業販売統計」



(出所) 経済産業省「商業販売統計」



(出所) 経済産業省「商業販売統計」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。